



東地中海地域ニュース

イラン情勢(23) : 改革派有力者たちの裁判開始

研究員 山崎 和美

8月1日、大統領選挙の不正を訴えた街頭での抗議行動に参加し、逮捕・起訴された約100人の被告の公判が開始した。今回の裁判で「混乱の幕引き」を目指す当局に対し、反対派は「(当局が筋書きを演出した)ショーだ」と反発を強めている。

起訴状によると、騒乱(抗議行動)は三つの改革派政党が主導して事前に計画したもので、外国NGO(非政府組織)から資金を得て、(東欧で起きた民衆による)「ビロード革命」を参考に実行に移した、とされる。

一方、アフマディーネジャード大統領は、ハーメネー最高指導者との不和説を否定した。

対外関係に関しては、31日、イラク・クルド自治区のイラン国境付近を旅行していた米国人3人がイラン当局に拘束されるという、新たな火種ともなりうる問題が生じた。

内政

元副大統領ら改革支持派100人の裁判開始

国営イラン通信、ファールス通信などによると、1日、選挙の不正を訴えた街頭での抗議行動に参加し、逮捕・起訴された被告の公判がテヘランの革命裁判所で始まった。

検察側は、被告の改革派勢力はイスラム革命体制を打倒するための市民革命を企て、外国の団体から資金援助を受けた、などとする起訴事実を読み上げた。約100人の被告は「体制転覆罪」(最高刑は死刑)などに問われている。

出廷する改革派有力者

出廷した被告のうち、改革派ハータミー前政権時代の高官ら改革派有力者など、著名な人物は以下の通り；

モハンマド・アリー・アブタヒー元副大統領(ハータミー前政権時代)

モフセン・アミンザーデ元外務次官(ハータミー前政権時代)

ベフザード・ナバヴィー元国会副議長(ハータミー前政権時代)

改革派政党イラン・イスラム参加戦線(Islamic Iran Participation Front)のモフセン・ミールダーマーディー党首

米誌ニューズウィーク記者でカナダ国籍を持つマズィーア・バハーリー氏

改革派要人：「大統領選挙不正なかった」と証言

起訴された改革派の要人は、1日に始まった裁判で相次ぎ「選挙に不正はなかった」と証言した。

法廷で、アブタヒー氏は「他の改革派リーダーと共に騒乱を扇動するための準備をした」と告白した。同氏は閉廷後の会見で「最高指導者ハーメネー師が選挙結果について(反対派の主張を認めて)後ずさりしていたら、イランはアフガニスタンやイラクと共に混乱のトライアングル(三角形)を形成することになった」と指摘し、ハーメネー師の対応を称賛した。

ハータミー前大統領：「見せ物裁判」と批判

改革派のハータミー前大統領は2日、ウェブサイトを通じ、「1日の裁判は見せ物であ

り、(被告の)自白は無効だ。このような見せ物的な裁判は直接的に体制を傷つけ、さらに国民の信頼を失うことになる」と批判した。

最高評議会：自白の強要を示唆

1日の裁判に関し、ムーサヴィー氏を背後で支援してきた保守穏健派ラフサンジャーニ一元大統領が議長を務める最高評議会は1日の声明で、自白の強要を示唆し「(アブタヒー氏の証言は)うそだ」と反発した。また改革派政党の一つはウェブサイトで「最低レベルのバカげたショー」とこき下ろした。

改革派ウェブによると、アブタヒー氏は1カ月半の拘置中に体重が18キロも減少し、弁護士との接見もできないという。イランでは国家安全保障に反する犯罪の最高刑は死刑だが、革命防衛隊系のファールス通信は同氏の最高刑は「最大で禁固5年」と伝えており、当局との裏取引の可能性も指摘されている。

アフマディーネジャード大統領：最高指導者との不和説を否定

同大統領は31日、第1副大統領人事や閣僚解任をめぐる憶測される最高指導者ハーメネー師との対立説を打ち消した。北部マシュハドでの会合で表明した。

国営イラン通信(IRNA)によると、大統領はこの中で、ハーメネー師との関係に触れ、「政治や政権の枠組みを超え、愛情と信仰で結ばれている。父親と息子の間柄に似ている」と指摘、確執説を流す勢力を非難した。

外政

米国人3人の拘束

31日米CNNテレビが、イラク北部のクルド自治政府当局者の話として伝えたところによると、イラクのクルド自治区でイラン国境付近を旅行していた米国人3人がイラン当局に拘束された。観光中に国境を越え、同国領内に入ったと見られる。

同日、米 국무省は、米国人3人がイランで拘束されたとの情報を調査中であることを明らかにし、イラク北部のクルド自治政府当局者は、ハイキングをしていた米国人観光客3人がイラン領内へ迷い込み、拘束されている可能性があると述べた。

8月1日、国営テレビなどの報道によると、イラク北部クルド自治政府当局者は、米国人旅行者3人がイランとの国境付近でイラン当局に拘束されたことを明らかにした。

クルド自治政府当局者によると、拘束されたのは男性2人と女性1人。当初、別の米国人男性と計4人でシリアからトルコを經由してイラクのクルド地域に入った。体調を崩した男性1人をスレイマニヤのホテルに残し、3人は7月30日にイランとの国境に近い山あいの保養地アハメドアワにタクシーで向かった。

31日午後になって、ホテルに残った男性に3人から「イランの兵士に囲まれている」との電話があったのを最後に消息が途絶えた。地元の警察官が同日、イラク・イランの国境線が明示されていない山岳地帯へハイキングに向かった3人を見かけ、注意を呼びかけていたという

ローマに「ネダ・ストリート」誕生

米CNNが31日に伝えるところによると、ローマ市議会は、イラン大統領選後の抗議デモ現場付近で銃撃を受けて死亡した女性ネダー・アーガーソルターンさん(当時26歳)を追悼し、市内にネダーさんの名を冠した「通り」を誕生させる決議を採択した。

本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799